

令和7年3月

【宗像市】

1人1台端末の利活用に係る計画

宗像市教育委員会

1 1人1台端末をはじめとする ICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和3年1月の中央教育審議会の答申『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」や、新型コロナウイルスの感染拡大などの先行き不透明な「予測困難時代」の到来を受け、子どもたちに育むべき資質・能力として、「目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考え、多様な立場の者が協働的に議論し、納得解を生み出すことなど、正に新学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求められている」としています。そして、これらの資質・能力を育むために、これからの学校教育を支える基盤的ツールとしてのICTの活用が必要不可欠であると示されています。

新学習指導要領においては、「生きて働く知識・技能の習得」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成」、「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養」を目指しています。

また、情報モラルを含む情報活用能力が、言語能力や問題発見・解決能力と並ぶ、「学習の基盤となる資質・能力」と位置付けられています。

本市でも、「宗像市教育大綱(令和7年2月)」の9つの施策の1つとして「安全・安心で質の高い教育環境づくり」を掲げ、「ICT環境の整備による教育DXの推進」に取り組むこととしており、「児童生徒の情報活用能力の育成」を目指しています。

2 GIGA第1期の総括(「宗像市学校教育ICT活用推進方針」より)

2-1 GIGAスクール構想に伴う本市の学校ICT環境の整備状況

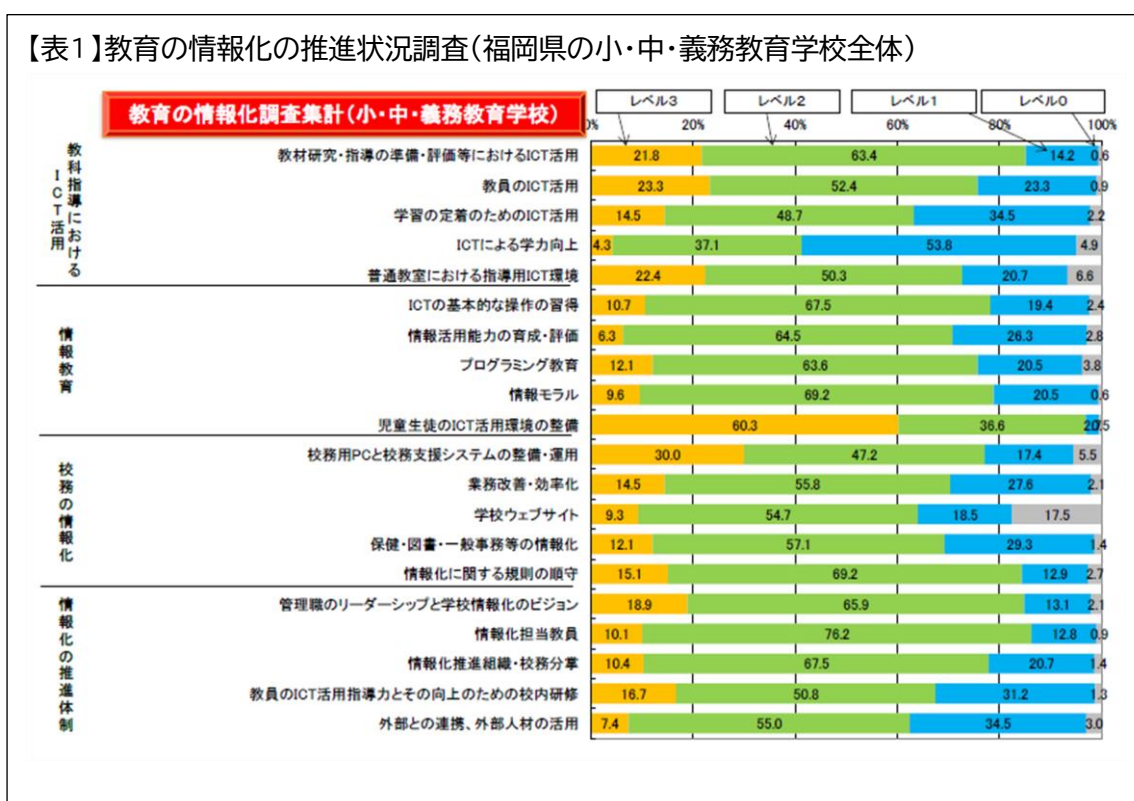
	導入年度	対象	内容
タブレット端末 (Chromebook)	令和2年度購入 令和3年度より活用	全児童生徒	児童生徒1人1台端末の貸与
校内高速 LAN	令和2年度整備 令和3年度より活用	全校	大容量高速回線の敷設
授業支援ソフト (ロイロノート)	令和3年度より活用	全児童生徒	授業内での児童生徒－教員間の情報共有ツール

学習支援ソフト (AIドリル)	令和3年度より活用	全児童生徒	AI を活用して、児童生徒の理解度に合わせて問題を出題するデジタル教材
大型提示装置	令和4年度整備	全普通教室 特別教室	大型モニタ又は天吊りプロジェクタ
デジタル教科書	令和4年度より活用	5～9年の 全児童生徒	(R6)英語、算数・数学

2-2 本市の現状と課題

(1) 学校間・教員間でのICT活用水準の差異

表1 は、福岡県が実施した「令和4年度教育の情報化の推進状況調査(令和5年3月)」¹の県全体の調査結果ですが、学校間でICTの活用水準に大きな差異があることが分かります。



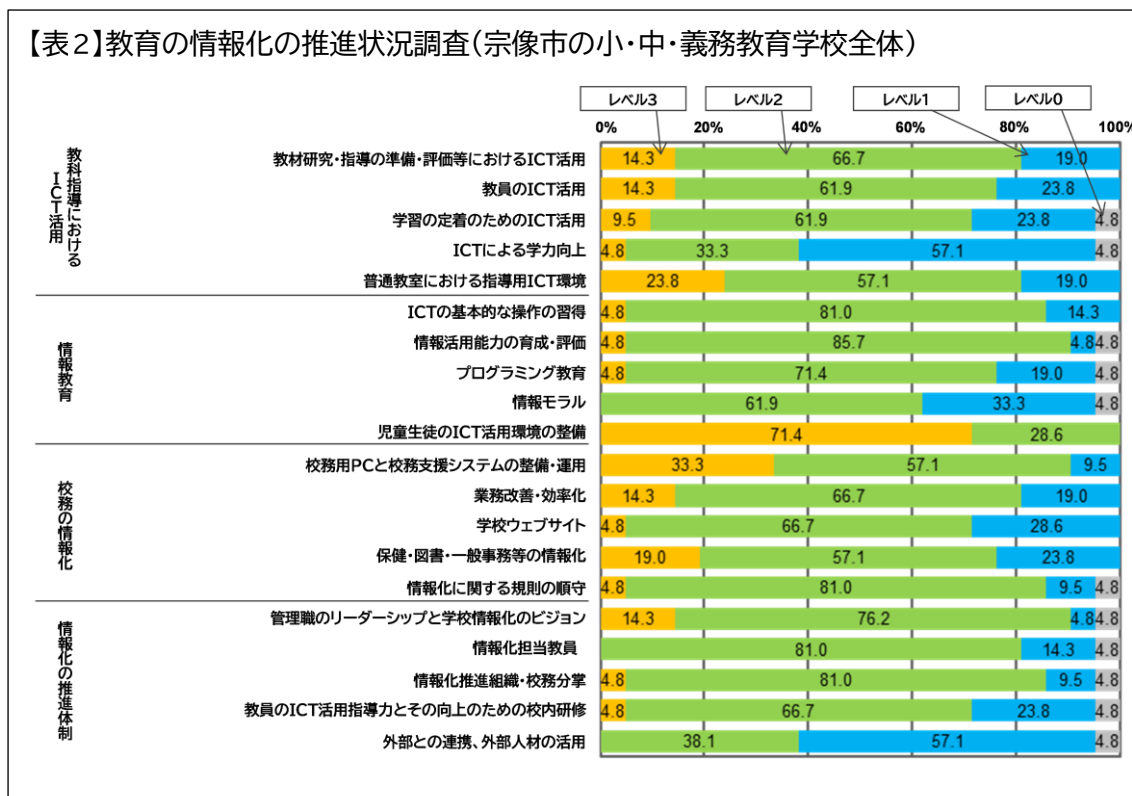
¹「令和4年度教育の情報化の推進状況調査(令和5年3月)」の概要

基準日: 令和5年3月1日

調査方法: 日本教育工学協会(JAET)が作成した20項目の「学校情報化チェックリスト」の各項目について、それぞれの学校がその推進状況について、「レベル0: 取り組みが不十分な状態」「レベル1: 部分的に取り組まれている状態」「レベル2: 学校として十分な取り組みが行われている状態」「レベル3: 先進的・発展的な取り組みが行われている状態」のいずれかを選択して回答したもの。

表2 から分かるように、本市においても福岡県全体と同様の傾向が確認されました。また、学校内においてもICTに対する得手不得手等により、教員間の活用水準にも差異が生じていることが推察されます。

【表2】教育の情報化の推進状況調査(宗像市の小・中・義務教育学校全体)



全ての児童生徒が教育におけるICT化の恩恵を受けるとともに、教育の機会均等化を確保することは非常に重要なことです。本市においても、今後、さらなるICT機器の導入や、ICTの一層の活用が進んでいくことは想像に難くありませんが、学校間や教員間でこの差異がさらに拡大していくことが懸念されます。

(2) ICT活用の資質・能力の育成

国の「学校教育情報化推進計画」では、ICT を活用した児童生徒の資質・能力の育成について、次のように言及しています。

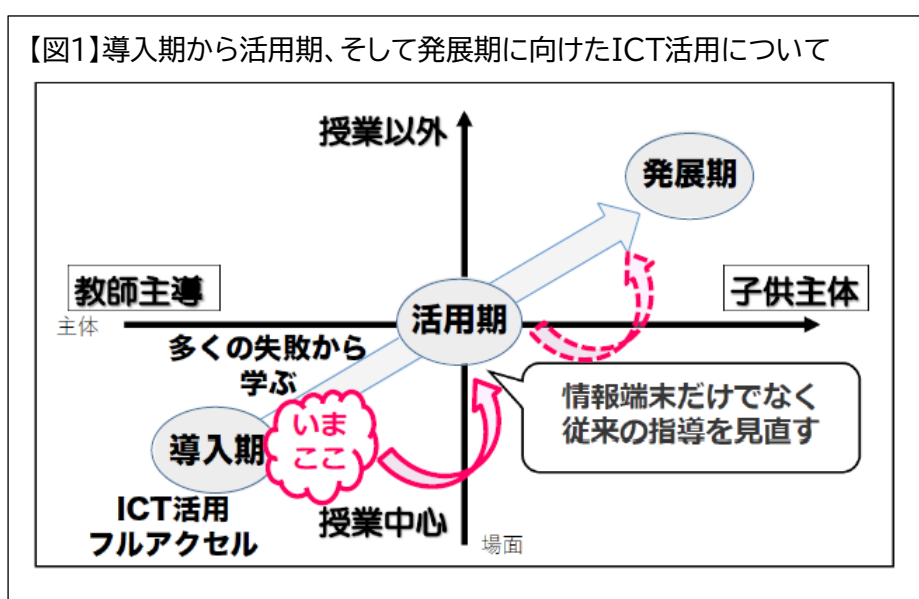
「ICTを積極的に活用し、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善につなげていくことが求められる。多様で大量の情報が取り扱えるのみならず、時間・空間の制約を超えることができるなどのICTの特性・強みを生かし、端末を日常的に活用することで、児童生徒自身が、ICTを新たな学びのツールとして自由な発想で適切に活用できるようにすることが必要であ

る。また、そのためには、児童生徒が自ら進んで学習する、自律的な学習者となることが求められる。」²

本市ではこれまでも、ICTを活用すること自体が「目的」となるのではなく、ICTを「手段」として学びを深めていくことが重要であるという認識のもと、様々な実践を行ってきました。

しかし、まずはICTを活用する場면을多く生み出すことを優先した導入期においては、図1³で示されるように、教員による様々な試行錯誤や挑戦的な実践の中で、どうしても目的と手段が入れ替わってしまうという状況もありました。

今後、活用期、そして発展期を迎えるに当たっては、これまでの様々な知見を生かし、児童生徒が主体となり、「自ら進んで学習する、自律的な学習者」となるような実践がますます重要となってきます。



(3) 児童生徒が安心・安全にICT活用できる条件の整備

学校の内外を問わず、既に児童生徒にとってICT機器やインターネットは身近な存在であり、インターネットやSNSなどのトラブルに遭うリスクとは隣り合わせの状況です。

本市においても1人1台端末が導入されて以降、導入当初には想定もできなかったインターネット上での様々なトラブルが発生し、その度に学校、家庭、市教委が連携し、解決に当たってきました。しかし、情報技術の進展とともに多種多様なトラブルが新たに生み出されるため、対応は常に後手にならざるを得ません。起こったトラブルを都度対応することも大切ですが、それ以上に、児童生徒がトラブルを回避するための適切な情報モラル・セキュリティを身に付けることが必要です。

また、児童生徒が情報モラル・セキュリティを身に付けるためには、それを教育する教員の情

² 文部科学省「学校情報化推進計画」P.7

³ 福岡県教育委員会「福岡県学校教育 ICT 活用推進方針」P.4

報モラル・セキュリティの意識向上も求められます。

加えて、国の「学校教育情報化推進計画」で言及されているように、すべての児童生徒を取り残さないために、ICTの特性を最大限活用することも重要な視点となってきます。⁴

3 1人1台端末の利活用方策（「宗像市学校教育ICT活用推進方針」より）

（1）学校間・教員間でのICT活用水準の差異への対応

導入期において、本市では市全体のICT施策を考える「GIGAスクール推進プロジェクトチーム会議」を起ち上げるとともに、各校に「GIGAスクール推進担当者」を定め、その担当者が主務者となり各校のICT活用を推進する体制を構築してきました。

また、主に夏季休業期間等を活用した教員向けの集合研修により、本市全体のICT活用水準の引き上げを図ってきました。加えて、令和5年度からは、一部の教材において教員の活用度や理解度に応じたレベル別研修を試験的に導入し、全体水準の底上げに一定の成果を確認することができました。

今後は、次の施策により、学校間や教員間での活用水準のさらなる向上を図ります。

- レベル別研修のさらなる充実により、一層の底上げを図ります。
- 学校のICT活用履歴を蓄積し、活用度が定量的に見える仕組みを構築するとともに、活用度に応じて、ICT指導員やICT支援員による積極的な支援を実施します。
- それぞれの学校や教員がこれまでに蓄積してきた知見やノウハウを、学校間や教員間で共有できる仕組みを構築します。

施策	令和6年度	令和7年度～
レベル別研修の充実と実施方法の工夫	検討・実施	検討・実施
ICT活用度の“見える化”と、活用度に応じた集中支援	履歴の蓄積と学校別支援計画の策定	履歴の継続蓄積と学校別支援の実施
学校間・教員間での情報共有の仕組みの構築	仕組みの構築	仕組みの運用

⁴ 「不登校、病気療養、障害、日本語指導を要すること、あるいは特定分野に特異な才能を有することなどにより特別な支援が必要な児童生徒に対するきめ細かな支援、さらには個々の才能を伸ばすための高度な学びの機会の提供、中山間地域や離島等の児童生徒への多様な学びの機会の提供等に、ICTの持つ特性を最大限活用することが重要である。」（文部科学省「学校情報化推進計画」P.7）

(2)ICT活用の資質・能力の着実な育成への寄与

本市では、情報活用能力の育成を目指した意図的な教育活動や、情報活用能力と関連付けた各教科等の学習を十分に展開することを目的に、文部科学省の「教育の情報化に関する手引(令和元年12月)」を基にした「宗像市情報活用能力系統表」を令和4年度に作成しました。

【表3】宗像市情報活用能力系統表(知識及び技能)

分類			第1学年, 第2学年 具体的項目(第2学年のゴール)	第3学年, 第4学年 具体的項目(第4学年のゴール)	第5学年, 第6学年, 第7学年 具体的項目(第7学年のゴール)	第8学年, 第9学年 具体的項目(第9学年のゴール)
I 情報と情報技術 を適切に活用 するための 知識と技能	1 情報と情報技術 を適切に活用 するための 知識と技能	①情報技術に 関する技能	a, コンピュータ起動や終了, 写真撮影などの基本操作	a, キーボードなどによる文字の 正しい入力方法	a, キーボードなどによる文字の 正確な入力	a, キーボードなどによる十分な速さで 正確な文字の入力
			b, 電子ファイルの呼び出しや保存	b, 電子ファイルの検索	b, 電子ファイルのフォルダ管理	b, 電子ファイルの運用(圧縮, パスワード による暗号化, バックアップ等)
			c, 画像編集, ペイント系アプリケー ションの操作	c, 映像編集アプリケーションの 操作	c, 目的に応じたアプリケーション の選択と操作	c, 目的に応じた適切なアプリケー ションの選択と操作
				d, インターネット上の情報の 閲覧, 検索	d, クラウドを用いた協働作業	
		②情報と情報 技術の特性の 理解		a, 情報の基本的な特徴	a, 情報の特徴	a, 情報の流通についての特徴
					b, 情報を伝える主なメディアの 特徴	b, 情報を伝えるメディアの特徴と その活かし方
						c, 表現, 記録, 計算の原理, 法則
			d, コンピュータの存在	d, 身近な生活における コンピュータの活用	d, 社会におけるコンピュータの 活用	d, 社会におけるコンピュータや 情報システムの活用
		③記号の組合 せ方の理解		e, コンピュータの動作と プログラムの関係	e, 手順とコンピュータの動作の 関係	e, 情報のデジタル化や処理の 自動化の仕組み
						f, 情報通信ネットワークの構成と情報 を利用するための基本的な仕組み
						g, 情報システム化の基礎的な仕組み
			a, 大きな事象の分解と組み 合わせの体験	a, 単純な繰り返し, 条件分岐, データや変数などを含んだ プログラムの作成, 評価, 改善	a, 意図した処理を行うための最適 なプログラムの作成, 評価, 改 善	a, 問題発見, 解決のための安全, 適切 なプログラムの制作, 動作の確認及 びデバッグ等
A 知識及び技能	2 問題解決, 探 究における情 報活用の方 法の理解	①情報収集, 整理, 分析, 表現, 発信の 理解	a, 身近なところから様々な情報を 収集する方法	a, 調査や資料等による基本的な 情報の収集の方法	ab, 調査や実験, 観察等による 情報の収集と検証の方法	a, 情報通信ネットワークなどからの 効果的な情報の検索と検証の方法
						b, 調査の設計方法
			c, 共通と差異, 順序などの情報と 情報との関係	c, 考えと理由, 全体と中心などの 情報と情報との関係	c, 原因と結果など情報と情報との 関係	c, 意見と根拠, 具体と抽象など情報と 情報の関係
				d, 情報の比較や分類の仕方	d, 情報と情報の関係付けの仕方	d, 比較や分類, 関係付けなどの情報の 整理の仕方
			e, 簡単な絵や図, 表やグラフを 用いた情報の整理の方法	e, 観点を決めた表やグラフを 用いた情報の整理の方法	e, 目的に応じた表やグラフを 用いた情報の整理の方法	e, 表やグラフを用いた統計的な情報の 整理の方法
			f, 情報の大体を捉える方法	f, 情報の特徴, 傾向, 変化を 捉える方法	f, 複数の視点から情報の傾向と 変化を捉える方法	f, 目的に応じて情報の傾向と変化を 捉える方法
			g, 情報を組み合わせて表現する 方法	g, 自他の情報を組み合わせて 表現する方法	g, 情報の表現手段を組み合わ せて表現する方法	g, 情報を統合して表現する方法
			h, 相手に伝わるようなプレゼン テーションの方法	h, 相手や目的を意識したプレゼ ンテーションの方法	h, 聞き手とのやりとりを含む効果 的なプレゼンテーション方法	h, Webページ, SNS等による発信, 交流の方法
		②情報活用 の計画や評価, 改善のための 理論や方法の 理解	a, 問題解決における情報の 大切さ	a, 目的を意識して情報活用の 見直しを立てる手順	a, 問題解決のための情報及び 情報技術の活用計画を 立てる手順	a, 条件を踏まえて情報及び情報技術 の活用計画を立てる手順
			b, 情報の活用を振り返り, 良さを確かめること	b, 情報の活用を振り返り, 改善 点を見出す手順	b, 情報及び情報技術の活用を 振り返り, 効果や改善点を 見出す手順	b, 情報及び情報技術の活用を効率化 の視点から評価し改善する手順
		③情報技術の 役割, 影響の 理解		a, 情報社会での情報技術の 活用	a, 情報社会での情報技術の働き	a, 情報システムの種類, 目的, 役割や 特性
					b, 情報化に伴う産業や国民生活 の変化	b, 情報化による社会への影響と課題
B 知識及び技能	3 情報モラル, セキュリティ などについて の理解	①情報技術の 役割, 影響の 理解	a, 人の作った物を大切にすること や他者に伝えてはいけない情報 があること	a, 自分の情報や他人の情報の 大切さ	a, 情報に関する自分や他者の 権利	a, 情報に関する個人の権利とその 重要性
					b, 通信ネットワーク上のルールや マナー	b, 社会は互いにルール, 法律を守る ことによって成り立っていること
				c, 生活の中で必要となる基本的 な情報セキュリティ	c, 情報を守るための方法	c, 情報セキュリティの確保のための 対策, 対応
			cdef, コンピュータなどを利用する ときの基本的なルール	e, 情報の発信や情報をやりとり する場合の責任	d, 情報技術の悪用に関する 危険性	d, 仮想的な空間の保護, 治安維持 のための, サイバーセキュリティの 重要性
		②情報モラル, 情報セ キュリティの理 解			e, 発信した情報や情報社会での 行動が及ぼす影響	e, 情報社会における自分の責任や 義務
					f, 情報メディアの利用による健康 への影響	f, 健康面に配慮した, 情報メディア との関わり方
		③情報モラル, 情報セ キュリティの理 解				

【表4】宗像市情報活用能力系統表(思考力、判断力、表現力等)

B	思考力、判断力、表現力等	I 問題解決、探究における情報活用する力(プログラミング的思考、情報モラル、セキュリティを含む)	※体験や活動から疑問を持ち、解決の手順を見通したり分解して、どのような手順の組み合わせが必要かを考えて実行する	※収集した情報から課題を見つけ、解決に向けた活動を実現するために情報の活用を見通しを立て、実行する	※問題を焦点化し、ゴールを明確にし、シミュレーションや試作等を行いながら問題解決のための情報活用の計画を立て、調整しながら実行する	※問題を焦点化し、ゴールを明確にし、シミュレーションや試作等を行いながら問題解決のための情報活用の計画を立て、調整しながら実行する
			①身近なところから課題に関する様々な情報を収集し、簡単な絵や図、表やグラフなどを用いて、情報を整理する	①調査や資料等から情報を収集し情報同士のつながりを見つけたら、観点を決めた簡易な表やグラフ等や習得した「考えるための技法」を用いて情報を整理する力	①目的に応じた情報メディアを選択し、調査や実験等を組み合わせながら情報収集し、目的に応じた表やグラフ、「考えるための技法」を適切に選択、活用し、情報を整理する	①調査を設計し、情報メディアの特性を踏まえて、効果的に情報検索、検証し目的や状況に応じて統計的に整理したり、「考えるための技法」を組み合わせ活用したりして整理する
			②情報の大体を捉え、分解、整理し自分の言葉でまとめる	②情報を抽象化するなどして全体的な特徴や要点を捉え、新たな考えや意味を見出す	②情報の傾向と変化を捉え、×類似点や規則性を見つけたら他の転用や応用を意識しながら問題に対する解決策を考察する	②目的に応じ、情報と情報技術を活用して、情報の傾向と変化を捉え、問題に対する多様な解決策を明らかにする
			③相手の意識し、わかりやすく表現する	③表現方法を相手に合わせて選択し、相手や目的に応じ、自他の情報を組み合わせ適切に表現する	③目的や意図に応じて複数の表現手段を組み合わせたりを含めて効果的に表現する	③目的や意図に応じて情報を統合して表現し、プレゼンテーション、Webページ、SNSなどやプログラミングによって表現、発信、創造する
			④問題解決における情報の大切さを意識しながら情報活用を振り返り、良さに気付くことができる	④自らの情報の活用を振り返り、手順の組み合わせをどのように改善していけば良いかを考える	④情報及び情報技術の活用を振り返り、改善点を論理的に考える	④情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し、意図する活動を実現するために手順の組み合わせをどのように改善していけばより意図した活動に近づくのかを論理的に考える

【表5】宗像市情報活用能力系統表(学びに向かう力、人間性等)

C	学びに向かう力、人間性等	I 問題解決、探究における情報活用する力	①多角的に情報を検討しようとする態度	a, 事象と関係する情報を見つけようとする	a, 情報同士のつながりを見つけようとする	a, 情報を構造的に理解しようとする	a, 事象を情報とその結びつきの視点から捉えようとする
			b, 情報を複数の視点から捉えようとする	b, 新たな視点を受け入れて検討しようとする	b, 物事を批判的に考察しようとする	b, 物事を批判的に考察し判断しようとする	b, 物事を批判的に考察し判断しようとする
			②試行錯誤し、改善しようとする態度	a, 問題解決における情報の大切さを意識して行動する	a, 目的に応じて情報の活用を見通しを立てようとする	a, 複数の視点を想定して計画しようとする	a, 条件を踏まえて情報及び情報技術の活用計画を立て、試行しようとする
			c, 情報の活用を振り返り、良さを捉えようとする	c, 情報の活用を振り返り、改善点を発見しようとする	c, 情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見出そうとする	c, 情報及び情報技術の活用を振り返り、効果や改善点を見出そうとする	c, 情報及び情報技術の活用を効率化の視点から評価し改善しようとする
			①責任をもって適切に情報を扱おうとする態度	a, 人の作った物を大切に、他者に伝えるにはいけない情報を守ろうとする	a, 自分の情報や他人の情報の大切さを踏まえ、尊重しようとする	a, 情報に関する自分や他者の権利があることを踏まえ、尊重しようとする	a, 情報に関する個人の権利とその重要性を尊重しようとする
		2 情報モラル、セキュリティなどについての態度	b, コンピュータなどを利用するときの基本的なルールを踏まえ行動しようとする	b, 情報の発信や情報やりとりする場合にもルール、マナーがあることを踏まえ、行動しようとする	b, 通信ネットワーク上のルールやマナーを踏まえ、尊重しようとする	b, 通信ネットワーク上のルールやマナーを踏まえ、尊重しようとする	b, 社会は互いにルール、法律を守ることによって成り立っていることを踏まえ、行動しようとする
			c, 情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする	c, 情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする	c, 生活の中で必要となる情報セキュリティについて踏まえ、行動しようとする	c, 情報セキュリティの確保のための対策、対応の必要性を踏まえ、行動しようとする	c, 情報セキュリティの確保のための対策、対応の必要性を踏まえ、行動しようとする
			d, 仮想的な空間の保護、治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性を踏まえ、行動しようとする	d, 仮想的な空間の保護、治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性を踏まえ、行動しようとする	d, 仮想的な空間の保護、治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性を踏まえ、行動しようとする	d, 仮想的な空間の保護、治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性を踏まえ、行動しようとする	d, 仮想的な空間の保護、治安維持のための、サイバーセキュリティの重要性を踏まえ、行動しようとする
			e, 発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を踏まえ、行動しようとする	e, 発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を踏まえ、行動しようとする	e, 発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を踏まえ、行動しようとする	e, 発信した情報や情報社会での行動が及ぼす影響を踏まえ、行動しようとする	e, 情報社会における自分の責任や義務を踏まえ、行動しようとする
			f, 情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする	f, 情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする	f, 情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする	f, 情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする	f, 情報メディアの利用による健康への影響を踏まえ、行動しようとする
		②情報社会に参画しようとする態度	a, 情報や情報技術を適切に使おうとする	a, 情報通信ネットワークを協力して使おうとする	a, 情報通信ネットワークは共用のものであるという意識を持って行動しようとする	a, 情報通信ネットワークは共用のものであるという意識を持って行動しようとする	a, 情報通信ネットワークの公共性を意識して行動しようとする
			b, 情報や情報技術を生活に活かそうとする	b, 情報や情報技術を生活に活かそうとする	b, 情報や情報技術をより良い人生や社会づくりに活かそうとする	b, 情報や情報技術をより良い人生や社会づくりに活かそうとする	b, 情報や情報技術をより良い生活や持続可能な社会の構築に活かそうとする

今後は、次の施策により、ICT活用の資質・能力の着実な育成に寄与します。

- 情報技術の進展に合わせ、「宗像市情報活用能力系統表」を定期的に見直します。
- 「宗像市情報活用能力系統表」に基づく実践事例をさらに蓄積するとともに、学校現場での活用を推進します。
- 児童生徒がタブレット端末をさらに活用していくための施策を実施します。

施策	令和6年度	令和7年度～
「宗像市情報活用能力系統表」の定期的な見直し	適宜実施	適宜実施
実践事例の蓄積	適宜実施	適宜実施
実践事例が学校現場で活用しやすくなるための仕組みの構築	仕組みの構築	仕組みの運用
タブレット端末の持ち帰りの推進	推進	推進

(3)安心・安全にICT活用できる条件の整備

本市では次の2つの観点から、安心・安全にICT活用できる条件の整備を図ります。

【観点①】情報モラル・セキュリティ教育の充実

・令和4年度には、「宗像市情報活用能力系統表」の中で特に情報モラル・セキュリティに関連した項目と、各教科の情報モラル・セキュリティに関連が深い単元とを結びつけた「情報モラル・セキュリティ教育に関わる実践指導案集」を作成し、学校現場での活用を促進してきました。今後も引き続き、各校の良質な実践指導案を収集するとともに、好事例を学校現場が即時活用できる仕組みを構築します。

・これまでもICT支援員による教職員の情報モラル・セキュリティ研修を各校で実施してきましたが、今後も情報技術の進展に合わせて研修内容をアップデートし、適宜実施していくことにより、教職員の情報モラル・セキュリティの意識向上につなげます。

【観点②】ICTのもつ特性を最大限に活用した、配慮が必要な児童生徒への対応の検討

病気療養や不登校などにより相当の期間学校を欠席する児童生徒や、日本語指導が必要な児童生徒、障がいのある児童生徒など、すべての児童生徒が安心・安全に学習できる状況を作るために、ICTのもつ特性を最大限に活用した学習環境の整備について検討を行います。

施策	令和6年度	令和7年度～
(観点①) 良質な実践指導案の継続的な収集	実施	実施
(観点①) 好事例を学校現場が即時活用できる仕組みの構築	仕組みの構築	仕組みの運用
(観点①) 情報セキュリティに係るヒヤリハット事例の共有	共有	共有
(観点①) 教職員向け情報モラル・セキュリティ研修の実施	実施	実施
(観点②) 配慮が必要な児童生徒への対応の検討	検討	検討

なお、これらの取組みを実施するためには、1人1台端末が必要不可欠です。そのため端末の整備及び更新により、1人1台端末環境を引き続き維持していきます。

4 本計画に係る指標(KPI)

項目	評価の指標(KPI)	目標値 (目標年度)
1人1台 端末の 積極的活用	毎年度ICT研修を受講する教員の率	100%(R6)
	ICT支援員の配置(ICT運営支援センター含む)	現状維持
	1人1台端末を週3回以上活用する学校の率	100%(R6)
	デジタル教科書を実践的に活用している学校の率	100%(R10)
個別最適・ 協働的な学 びの充実	児童生徒が自分で調べる場面において1人1台端 末を週3回以上使用させている学校の率	小:100%(R8) 中:100%(R8)
	児童生徒が自分の考えをまとめ発表・表現する場 面において1人1台端末を週3回以上使用させてい る学校の率	小:80%(R8) 中:80%(R8)
	教職員と児童生徒がやり取りする場面において1 人1台端末を週3回以上使用させている学校の率	小:80%(R8) 中:80%(R8)
	児童生徒がやり取りする場面において1人1台端 末を週3回以上使用させている学校の率	小:80%(R8) 中:80%(R8)
	児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて 課題に取り組む場面において1人1台端末を週3回 以上使用させている学校の率	小:80%(R8) 中:80%(R8)
学びの保証	希望する不登校児童生徒へ端末を活用した授業へ の参加・視聴の機会を提供している学校の率	100%(R8)
	希望する児童生徒への1人1台端末を活用した教 育相談を実施している学校の率	100%(R8)
	外国人児童生徒に対する学習活動等の支援に1人 1台端末を活用している学校の率	100%(R8)
	障がいのある児童生徒や病気療養児等、特別な支 援を要する児童生徒の実態等に応じて端末を活用 した支援を実施している学校の率	100%(R8)